



【長野県支部からの報告】

長野県支部長 鈴木貞博
(南長野医療センター篠ノ井総合病院総合診療科)

この度の新型コロナウイルス感染症パンデミックに関しては現時点では収束の道筋も見えず、会員の皆様も最前線の医療現場で大変ご苦労されている事と思います。

このパンデミックの影響で、令和2年10月31日～11月1日に予定しておりました関東甲信越ブロック地方会（長野大会）に関しては、通常通りの開催は困難との判断から1年延期する事といたしました。

新日程は、令和3年10月30日（土）、31日（日）となりました。開催場所は当初の予定通り、JA長野県ビル（長野市）となります。

ブロック地方会のホームページ（<http://www.abc-ad.co.jp/jpca2020/>）は、現在日程と場所の告知のみとなっておりますが、今後プログラムの詳細が決まり次第、徐々に情報を追加していく予定です。

特別講演は諏訪中央病院名誉院長鎌田實先生の「人生100年時代をどう支えるか～若き総合診療医、プライマリケア医へのメッセージ」（仮）という御講演を予定しております。教育講演1では、国立成育医療研究センター・妊娠と薬情報センター長・村島温子先生の「プライマリケア領域における母性内科について」（仮）のご講演をお願いしてあります。

その他、シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセミナー、症例報告、キャリアカフェなど準備をしております。

新型コロナウイルス感染症が一刻も早く制御される事を祈りつつ、長野県支部会員一同、ブロック地方会の開催に向けて一丸となって準備を進めていく所存であります。

来秋には長野の地で皆様とお会いできる事を信じております。

【埼玉県支部の活動報告】

日本プライマリ・ケア連合学会 埼玉県支部
さいたま市民医療センター 副院長 石田岳史

埼玉県支部では毎年11月に埼玉プライマリ・ケア連合研究会（兼総会）を開催しています。令和元年度は11月15日（金曜日）大宮ソニックシティビルにて第13回埼玉プライマリ・ケア連合研究会を成功裏に終了しました。「これからの地域包括ケアの指針」をメインテーマに、埼玉医科大学総合診療内科教授 木村琢磨先生「在宅医療の教育・研修」、さいたま市立病院内科部長 廣瀬立夫先生「地域に役立つ開放床の夜明け」、特別講演：福井大学医学部地域プライマリケア講座教授 井階友貴先生「赤ふん坊やが健康なまちをつくる～これからの地域包括ケアのカタチ～」で構成しました。参加者は55名でした。

残念ながら、今年度はCOVID-19の影響で開催を中止することになりました。しかし、SPartという埼玉県内の

プライマリ・ケアに関する医師・メディカルスタッフ有志が結成した「教育グループ」による埼玉ポートフォリオ勉強会を共催しており、2020年9月27日（日曜日）にオンラインで開催する予定です。